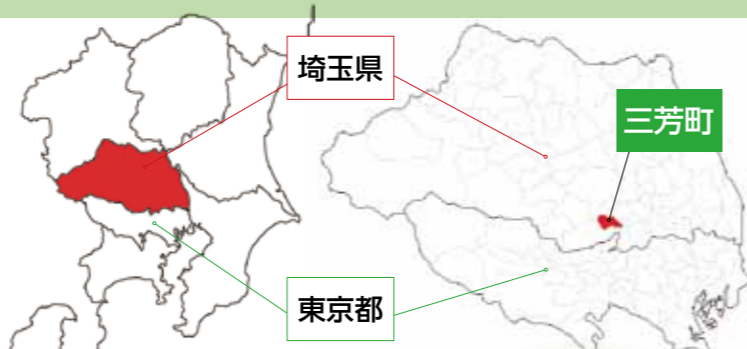


平地林が支える循環型農法

三富新田が世界に誇ることができる魅力をご紹介します

東京日本橋から30kmに位置

先進国でかつ、首都圏に近い地域で300年以上循環型農法が続けられているのは世界的に見ても珍しい。



申請地域…三富新田に代表される平地林の育成と落ち葉堆肥による伝統農法を維持している三芳町農業振興地域。

平地林の育成と循環型農法

- ▶三富新田では平地林の適正管理により痩せた土壌を肥沃な土地へと変化させた。
- ▶萌芽更新、ヤマ掃き等により平地林を適正管理し、落ち葉から堆肥を作り、耕作地へ施肥、耕作に適した土を作る。その畑で育った農作物の恵み（収益等）により再び平地林の管理をする。この持続可能な循環型農法が300年以上続けられている。



平地林の育成と落ち葉堆肥による土づくりが世代を超えて継承

農と結びついた生物多様性

- ▶萌芽更新・落ち葉掃き等の農業を通じた人の営みによって生物多様性が維持されている。
- ▶植物480種（7種）、動物700種（18種）、農作物74種
※カッコ内は日本の絶滅のおそれのある野生生物の種



サツマイモ

キンラン



①堆肥された畑に茂るさつまいもの葉②その畑で収穫されるさつまいも③循環型農法から誕生した農作物の恵み④収穫された農作物で得た収益等は緑豊かな平地林に還元する



①緑豊かな平地林②落ち葉掃きを行う様子③農用林として整備された平地林④平地林で集めた落ち葉を堆肥にする堆肥場⑤落ち葉堆肥を畑にすき込む。



農にまつわる伝統文化

- ▶開拓農家の心の拠りどころとして建立された寺社等が多く残されている。
- ▶先人たちの思いは祭りや儀式となり伝統文化として現在も数多く根付いている。

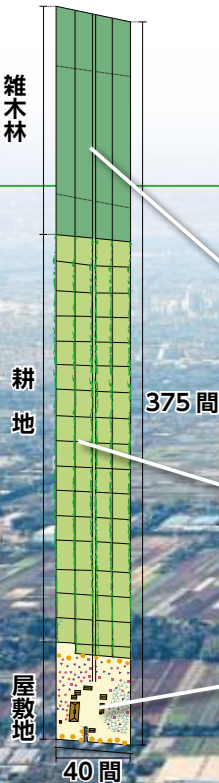


循環型農法への誇り

- ▶全国に比べても若い農業後継者が多く育っている。
- ▶農業従事者の農業に対する熱いスピリット・誇りの高さ。

三富新田の優れた景観と土地と水資源管理

- ▶屋敷地・耕地・平地林を一つの区画としておよそ320年前に造成された短冊形の地割景観が衛星写真でも確認できる規模で、今なお残っている。
- ▶耕地を林が囲むように配置することで保水性が向上し、水の得にくいこの土地に水の恵みをもたらした。
- ▶屋敷地・耕作地・平地林を造成する手法は、南米チリの砂漠化防止の手法として、国際協力機構（JICA）による技術指導の手本とされ、その評価を受けている。



世界農業遺産とは

「GIAHS」と呼ばれ、次世代に継承すべき重要な農業や生物多様性、農業景観を有する地域を国際連合食糧農業機関（FAO）が認定します。日本では佐渡と能登、静岡、阿蘇、国東が認定され、世界13か国、31の地域が認定されています。

三富新田の潜在能力

今から320年前、川越藩主の柳沢吉保が行った新田開発により誕生し、現在も循環型農業による知恵と工夫が受け継がれています。南米チリの砂漠化の防止策として、水に乏しい土地を林で囲み、保水性向上を実現した三富新田の土地利用を手本にJICA（国際協力機構）が技術指導するなど、世界的に注目されています。

世界遺産と世界農業遺産

世界遺産は、遺跡や歴史的建造物、自然などの「不動産」を登録保護する

三富新田世界農業遺産推進協議会



設立総会で撮影した協議会の皆さん。世界農業遺産登録に向けてさまざまな活動を行っていきます。

6月27日（金）、林町長をはじめとする正会員5人、アドバイザー3人のほか賛助会員からなる「三富新田世界農業遺産推進協議会」が設立されました。三富新田の伝統的な農法や土地利用だけでなく、生態系や土地景観、習慣、伝統文化など農業に関連する文化要素も含め、次世代へ継承すること、さまざまな環境変化に適応しながら進化し続ける世界農業遺産システムの登録をめざします。

世界農業遺産登録まで

①9月：農水省専門家会議による現地調査。
②10月：農林水産省承認の推薦地域が決定（日本代表の決定）。
③12月：協議会等からGIAHS申請書をFAOに提出。
④平成27年1～3月：FAO現地調査。
⑤平成27年5～6月予定：GIAHS国際フォーラムで世界農業遺産登録の結果発表。

世界のMIYOSHIへ

私たちの暮らす町が世界で認知されるかもしれません。今後の動きにぜひご注目ください。

三富新田世界農業遺産シンポジウム開催

世界農業遺産についてのパネルディスカッション（学識経験者や地元の企業、農家が参加）や写真や絵の展示、みよしっ子野菜市など、魅力満載のシンポジウムを開催します。また、応援イベントも併設します。（詳細は今月号の折り込みチラシで）

- ▶日時 **8月23日**（土） 13:30～16:00
- ▶場所 コピスみよし 大ホール 入場無料
- ▶募集人数 300人（要申込）



←東京農業大学名誉教授の進士五十八氏の講演が決定しています。

問い合わせ 観光産業課 内線2118

世界農業遺産登録に向けて本格的に始動

三富新田を世界へ。

